

日 時
授業場

児 童 3 年 生
授 業 者

1. 単元名 わたしたちの市のあゆみ ～市のうつりかわり～

2. 単元観・児童観・指導観

本単元は、小学校学習指導要領解説社会科編の第3学年の内容（4）を扱った単元である。交通や公共施設が整備されたり、人口が増えたり、土地利用の様子が変わってきたりしていることを調べる活動を通して、釧路市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を捉えたりこれからの釧路市について考えられるようにすることをねらいとしている。

本学級の児童は、前単元までに問題解決のためにまち探検や聞き取り（質問）などの調査活動に取り組んできている。「まちの様子」「市の様子」では、建物の種類や数、土地の様子、交通や人の量等に注目しながら学校のまわりや北大通り周辺を探検し、地域や市の特徴をまとめる活動を行った。「はたらく人と私たちの暮らし」や「地いきの安全を守る」では、「スーパーマーケットで買い物する人が多い理由は？」や「消防や警察の人はどうやって地いきの安全を守っているのだろうか？」といった疑問を明らかにするために教科書・副読本「くしろ」・図書資料を用いて調べたり、スーパーマーケットの店員の方や消防署・消防団の方に聞き取り調査（質問）を行ったりしながら必要な情報を集め、課題に対する自分なりの考えをまとめる活動を行った。「昔の道具」では、洗たく板とたらいを実際に使用することで、昔と今の道具を比較したり、生活の様子と関連付けたりすることで、道具の進化と自分たちの生活のつながりについて考える活動を行った。話合う活動では、友達の発言をもとに意見をまとめたり自分の考えを関連付けたりする児童も増えている。

指導にあたっては、釧路市が昔から現在に至るまでにまちの様子が変化していたり、人口が減少傾向にあったりしている事実から疑問をもち、話合いを通して学習問題を作り上げたり、追究の視点と方法（学習計画）を共有したりするなど問題解決的な学習展開を構成し、子供が前単元までで経験した学習方法を生かせるようにしたい。また、問題解決のために資料から必要な情報を集めたり、時代ごとの特徴を年表にまとめたりしていく過程で、人々の生活の移り変わりとも関連させることで、まちの様子は時間の経過に伴って移り変わってきたことを理解するとともに、これからの釧路市の発展について自分なりの考えをもったり自分にできることを考えたりしながら、「市民性・地域参画力」の資質・能力の育成を目指す。

3. 単元の目標

釧路市の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口などの時期による違いに着目して、聞き取り調査をしたり地図や写真などの資料を活用したりして調べて年表などにまとめ、時期ごとに比較・関連付けて考えたり説明したりすることを通して、釧路市や人々の生活の様子は時間の経過に伴い移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、釧路市や人々の生活の変化について情報をもとに追究したり話合いを通して解決したりしながら、釧路市の発展について市民の一人として努力や協力できることを考え、表現しようとする態度を養う。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 交通や公共施設，土地利用や人口などの時期による違いについて，聞き取り調査をしたり地図や写真などの各種資料で調べたりして，釧路市や人々の生活の様子を理解している。	ア 交通や公共施設，土地利用や人口などの時期による違いに着目しながら釧路市の移り変わりについて問いを見いだし，釧路市や人々の生活の様子を考え，表現している。	ア 釧路市の移り変わりについて，予想をもとに学習計画を立て，課題を解決するために情報収集し，必要な情報を整理したり選んだりして主体的に追究・解決しようとしている。
イ 調べたことを年表や文などにまとめ，釧路市や人々の生活の様子は，時間の経過に伴い，移り変わってきたことを理解している。	イ 調べたことをもとに，釧路市や人々の生活の様子の変化，想いを関連付けて考え，時間の経過に伴い，移り変わってきたことについて表現している。	イ 学習したことをもとに，これからの釧路市の発展について，人口の変化やまちの広がりなどに触れながら，自分の思いを表現しようとしている。

5. 単元のデザイン（全12時間）

	○学習活動 ・ 学習内容	手立て	評価の観点		
			知	思	態
1	<p>○まちの変化について考える</p> <p>○写真から，釧路市はどのように変化してきたのか予想する</p> <p>○写真から気付いたことを出し合い，単元全体の学習問題を作る。</p>	<p>・既習事項をもとに，「まちの変化」を捉えるための視点を出し合う。</p> <p>・資料①②を提示し，釧路市の変化が捉えられるようにする。</p> <p>資料① 大正時代（約120～130年前）の幣舞橋周辺（愛北橋）</p> <p>資料② 現在の幣舞橋周辺</p> <p>※補足資料として，約100年前，約70年前・約40年前の幣舞橋周辺も提示する。</p> <p>・写真から，建物や土地の様子など特徴的なものに着目し，まちの変化に疑問をもつことができるようにする。</p>		ア	
<p>【学習問題】 「釧路市は，どのように変化してきたのだろうか？」</p>					
2	<p>○写真をもとに調べるための視点を出し合い，学習計画を立てる。</p> <p>「目印となる建物（公共施設）について調べたらまちの変化がわかるんじゃないかな？」</p>	<p>・調べる対象とその方法について板書で整理する。</p>			ア



	<p>「建物（家や店）の数がわかれば、まちの変化もわかると思うよ」</p> <p>「人口を調べると、建物（家や店）のこともわかってくるんじゃない？」</p> <p>→『くしろ』や図書室の本，インターネットで調べてみよう。</p> <p>→お家の人にも話を聞いてみよう。</p>			
3 ～ 8	<p>○「人口」「建物（公共施設）」「道路（交通の様子）と土地利用」について調査活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口の変化とそのきっかけとなる出来事を比べる。 ・公共施設の建設について，地図や年表に整理する。 ・道路と土地利用の変化を捉える。 <p>○調べたことを年表に整理し，時期ごとの変化の傾向から，変化した理由を予想する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「どんなことが変わってきたのだろう」と問うことで，児童一人一人の追究の視点を生かしながら情報収集することで，交流の必然性をもたせる。 ・釧路市の人口推移のグラフ（資料④）を提示し，主な出来事と関連付けて捉えられるようにする。 ・主に学校に焦点を当て，人口の推移（子供の数の変化）と関連付けながら捉えられるようにする。 ・時期ごとの地図にまとめて比べることで，人口の推移と住宅街の広がりや道路の広がりに関連付けて捉えられるようにする。（資料⑤） ・「どう変わったのかな？」「どうして変わったのかな？」と問うことで，変化の事実から変化の理由を考えられるようにする。 	ア	イ
9 (本時)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">*詳細は本時案参照</div>			イ
10 ～ 12	<p>○釧路市役所の働きやこれからの向けての取組について調べる。</p> <p>○単元を通して調べてきたことをもとに，これからの釧路市に大事だと思うことを考察し，報告文にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「釧路市の将来はようになるだろう？」と問い，釧路市のこれからのについて話合う場を設定する。 		

6. 本時の目標（9/12）

前時の予想をもとに、釧路市が変化した理由について昔と今のまちの様子を比べたり人々の生活を関連付けたりしながら話し合うことを通して、今やこれからの釧路市の変化について考え、表現することができる。

7. 本時の展開

「目指す子供の姿」を実現するための手立て

教師の働きかけ（●発問, ▲補助発問, ■指示・説明）○子供の学習活動	◆留意点 ※評価
<p>①前時の予想をもとに、釧路市が変化した理由について話し合う</p> <p>●「釧路市は、どうして変化したのかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は魚や石炭がいっぱい取れたから（働く人がたくさんいた） ・人口が増えて、まちを便利にしようとした ・新しい店や道路ができた方が便利だから ・人が増えて、住む場所や家が必要になって、道路や店を作った ・便利になっているかもしれないけど、人口はへっているよ ・人口が減っているのに、新しい道路や建物ができているよ <p>②今とこれからのまちの変化について考え、話し合う</p> <p>●「今は人口が減っているから、もう変化(発展)する必要はないかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口は減っていても、住んでいる人は便利な方がいいから必要 ・便利にしていけば、またまちがにぎわって人口が増えるかもしれないから必要 ・自然（湿原）を壊してまで店や道路を増やす必要はない ・今のままでも十分だから変わらなくてもいい ・変わった方がいいと思うけど、迷う 	<p>◆前時に提出した「釧路市が変化した理由」に対する各自の考えをロイロノートで事前に共有しておく。</p>  <p>◆人口の変化と関連させて考えている児童を意図的に取り上げる。</p> <p>◆「必要」「必要ない」「わからない」の立場を明らかにする時間をとる。</p> <p>※これからの釧路市の発展について、人口の変化やまちの広がりなどを関連付けて考え、自分の想いを表現している。 (思・判・表)</p>
<p>③本時の学習を振り返り、釧路市に対する自分の想いを記述する。</p> <p>■「今日の学習をふりかえって、今の釧路市に対する自分の想いを書いてみよう。」</p>	<p>◆ふりかえりをロイロノートで提出し、次時の話合いに活用できるようにしておく。</p> 

■本時で目指す児童・生徒の姿

今日の授業における「市民性・地域参画力」を高めている姿

本時では、前時に各自が考えた「釧路市が変化した理由（ロイロノートに提出したもの）」をもとに交流する中で、昔と今のまちの様子を比べたり人々の生活の様子を関連付けながら考えることを通して、まちの発展について自分ごととして捉え、表現していく姿。

■本時のポイント

今日の授業における「目指す子供の姿」を実現するための手立て 子供の立場や思考、根拠を可視化することで子供同士の対話を促す～Ⅱ

・本時では、ロイロノートで可視化することでお互いの考えを把握したり、適切な場面で教師が取り上げたりすることで、お互いに情報を関連付けながら疑問を見いだしたり、まちが変化する理由について話し合ったりしていくことができるようにする。

釧路市は、どうして変化したのかな？



昔は魚や石炭がいっぱい取れた（働く人がたくさんいた）から

人口が増えて、まちを便利にしようとしたから

新しい店や道路ができた方が便利だから

人が増えて、住む場所や家が必要になって、道路や店を作ったから



便利になっているかもしれないけど、人口はへっているよ

人口が減っているのに、新しい道路や建物ができているよ

児童から「便利になっているかもしれないけど、人口は減っている」「人口が減っているのに、新しい道路や建物ができている」といった疑問を意図的に取り上げる

今は人口が減っているから、もう発展する必要はない？



自然（湿原）を壊してまで店や道路を増やす必要はない

人口は減っていても、住んでいる人は便利な方がいいから必要

便利にしていけば、またまちがにぎわって人口が増えるかもしれないから必要

今のままでも十分だから、変わらなくてもいい

変わった方がいいと思うけど、迷う



■ 社会科におけるリーダーシップ・フォロワーシップの育成について

社会科における Ls/Fs 育成のポイントは「市民性・地域参画力」

< 社会科で目指す子供の姿 >

「リーダーシップ・フォロワーシップ」育成のため、社会科においては今年度においても、「市民性・地域参画力」の資質・能力の育成に焦点をあて、研究を進めていく。

社会科における「市民性・地域参画力」の中で、市民性は、本教科の目標にも示されている公民としての資質・能力と同義で示される場合が多い。公民としての資質・能力とは、「よく生きたい、こうありたいと自己実現を図っていく中で、他者とかかわりながら、社会のありようを自分事として引き受けて、考え、行動する能力や態度」（内山、2016）と解されており、未来を創り上げるためには、自分たちが生活する身近な地域や社会に参画しようとする態度が欠かせない。よって、市民性は本教科の目標であり、地域参画力は市民性の中に含まれる資質・能力と見做すことができよう。

市民性・地域参画力は、知識・技能の習得のみならず、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を相互作用的に高めていくことで育成されていくものである。附属釧路義務教育学校社会科では、これらの資質・能力を各領域や単元の中でバランスよく育成していく。

社会科における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

- ① パフォーマンス課題を組み込んだ単元を構成する
- ② 子供の立場や思考、根拠を可視化することで対話的な学びを促す

① 子供が実社会と向き合うことができるようなパフォーマンス課題を組み込んだ単元を構成する

パフォーマンス課題とは、「現実の世界（実社会・実生活）からの挑戦や問題（または模した問題）において、様々な知識や概念、スキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な評価課題」（三藤・西岡、2010）のことである。例えば、歴史的分野の二度の世界大戦と日本の単元において「日本はなぜ戦争の道へと進んでしまったのか、これからの日本や世界はどのような考え方や行動をしていけばよいのか」という評価課題が挙げられる。単元の中核を子供が探究していくためにパフォーマンス課題を単元に組み込むことで、個々バラバラな知識や概念、スキルが関連付けられ総合されて、他の単元の学習へも転移可能な深い理解へと到達することができると考えた。さらに、子供が現実の世界（実社会・実生活）と向き合っていくことで、社会のありようを自分事として引き受けて、考え、行動する能力や態度が育まれる効果も期待できる。

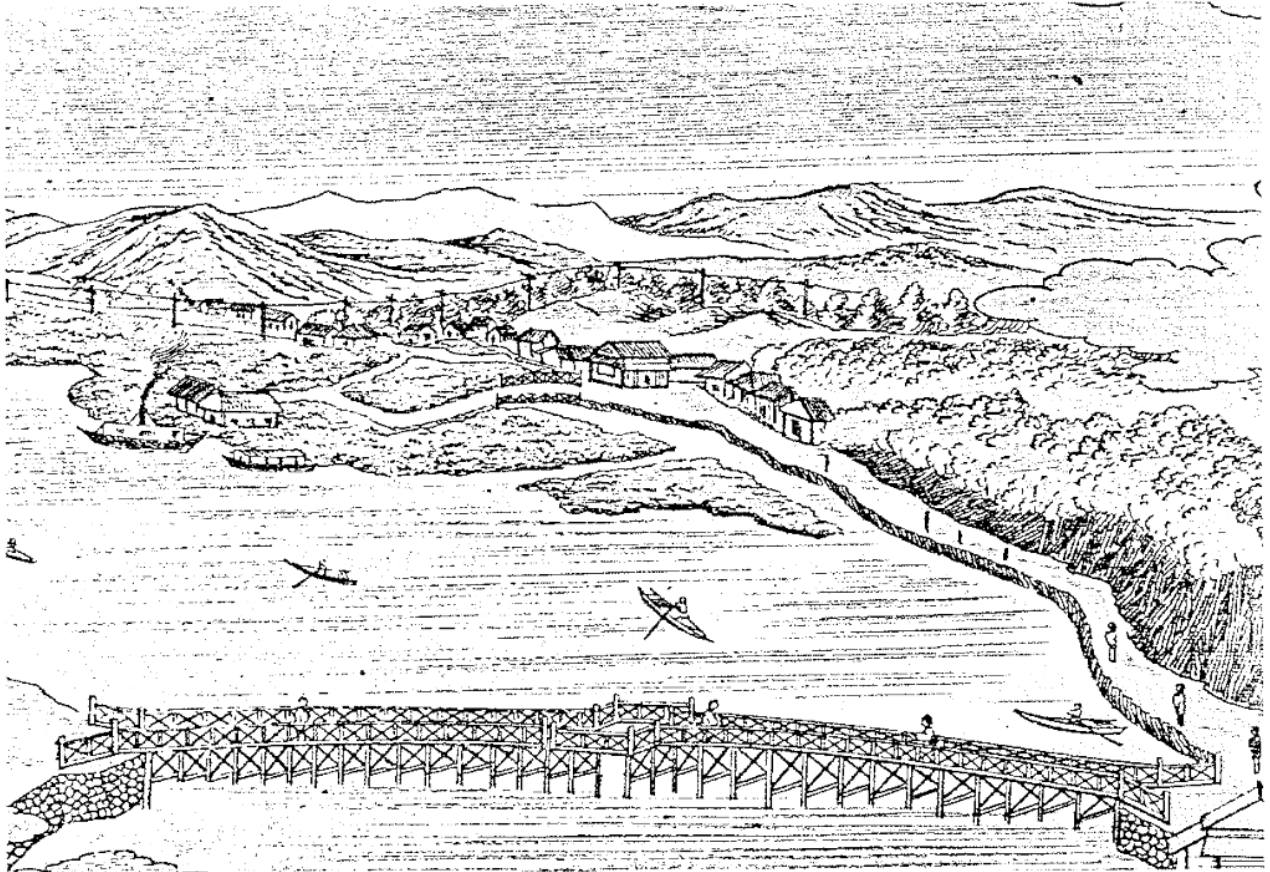
② 子供の立場や思考、根拠を可視化することで対話的な学びを促す

各単元で学習を行うにあたり、資料や自己との対話で得た情報をもとに自分の考えを表現する必要がある。平成 29 年度に実践した本教科の研究では、資料提示の工夫から子供の新たな視点を引き出す教師の働きかけとして 3 点について考察した。その実践と検証を踏まえ、今回は、子供が生み出した問いや予想、立場や根拠などを書き込み、学習効果があると思われる場面で書き込んだ資料を子供に提示することに視点をあてる。立場や思考、根拠を可視化することで、意見の対立や、立場を導く根拠の差異が可視化されて対話を行う子供の姿が引き出されることができるとは思わないかと考える。その際に、他者の立場や根拠が何を重視しているのかに気付き、自己の考えがより明確になる効果が期待できる。実際には、是か非かのように立場が決まっている場合や、追究する視点が示されている場合等によって根拠や理由を問うのか、根拠や理由の下支えとなった視点を問うのかなど分野や単元によって指導方法は変わってくる。子供がそれぞれ調べた視点で考えを述べ合うプロセスの中で、リーダーシップ・フォロワーシップが発揮され、多面的・多角的な考察が可能となるような実践を行っていく。

引用・参考文献

- 1) 内山 隆、「共生への学び」、北樹出版、2016
- 2) 三藤 あさみ・西岡 加名恵、「パフォーマンス評価にどう取り組むか」、日本標準、2010

資料① 大正時代（約120～130年前）の幣舞橋周辺（愛北橋）

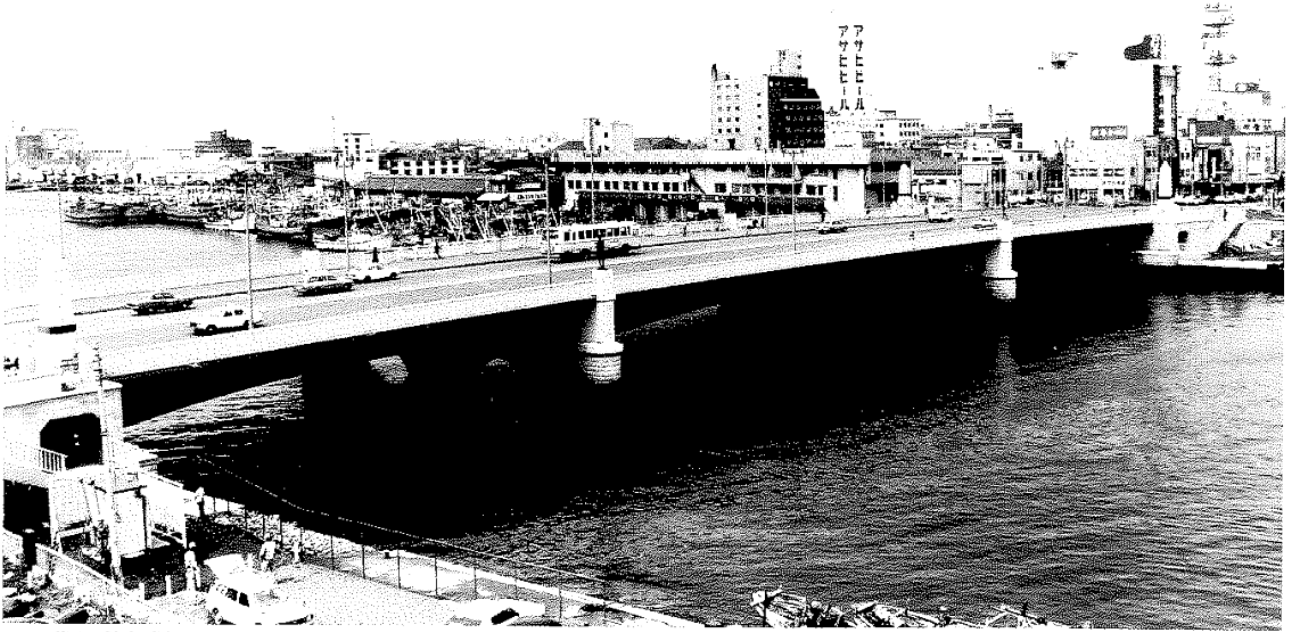


資料② 現在の幣舞橋周辺



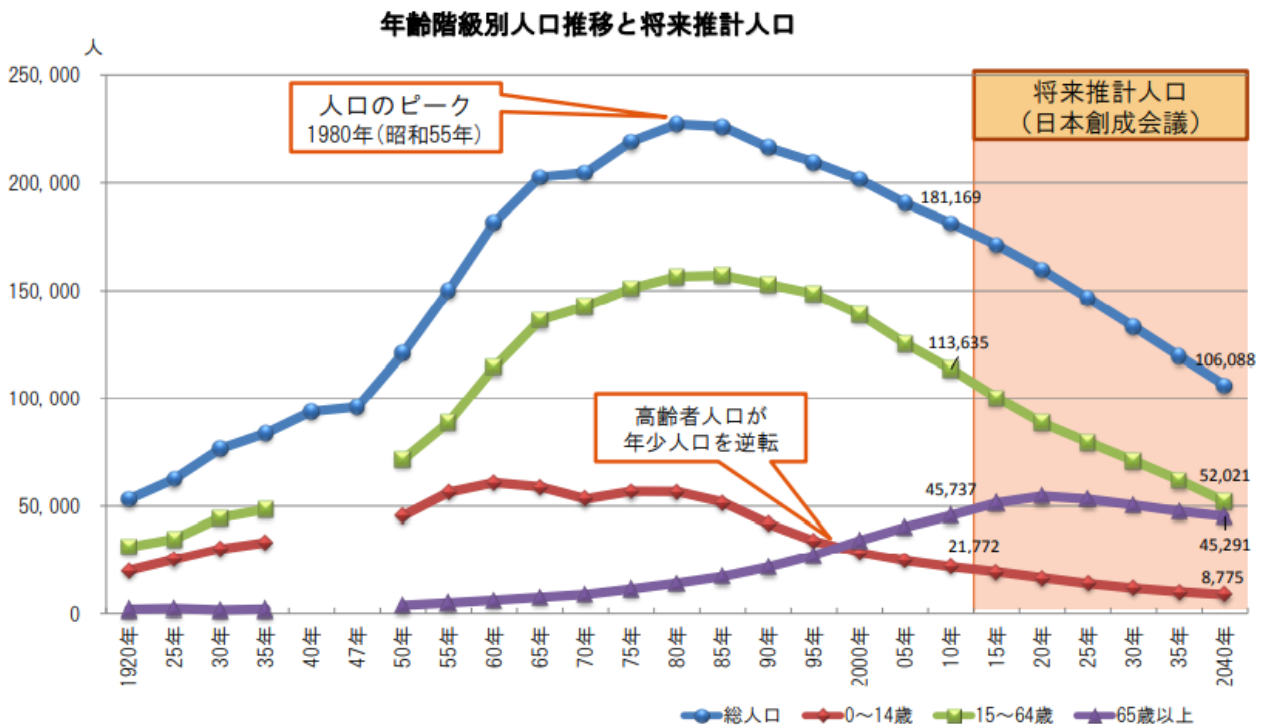
※補足資料 約100年前・約70年前・約40年前の幣舞橋周辺





資料④ 釧路市の人口推移

釧路市の人口推移と将来推計人口



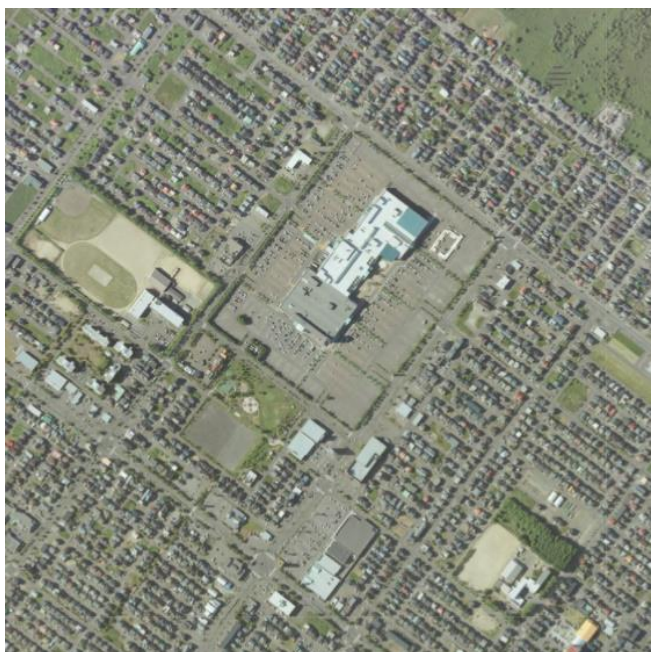
出展：1920年～2010年 総務省「国勢調査」（1940年・1947年はデータが欠落）
 2015年～2040年 日本創成会議による人口推計

資料⑤ 釧路市の土地利用の変化（航空写真）現在と約40～50年前

（1）幣舞橋周辺



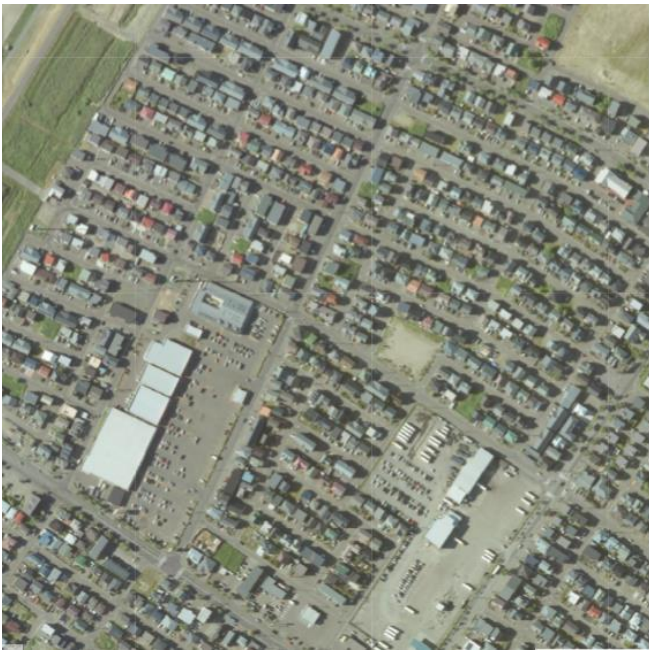
（2）昭和地区（釧路イオン昭和周辺）



(3) 美原地区



(4) 文苑地区



引用・参考文献

文部科学省 (2018). 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 社会編. 日本文教出版.

国立教育政策研究所教育課程研究センター(2020).「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 社会 東洋館出版.

澤井陽介(2019).「見方・考え方」を働かせて学ぶ社会科授業モデル3・4年 明治図書.

澤井陽介・廣嶋憲一郎(2018).小学校社会科学習指導案内集 東洋館出版.

安野功(2017).教師がつくる新しい社会科の授業～授業づくりにおける5つのキーワード～ 日本標準
地図ナビ (<https://www.map-navi.com>)

国土交通省 国土地理院 <https://www.gsi.go.jp/top.html>